



**Hewlett Packard**  
Enterprise

## **HPE ProLiant SCCM Integration Kit (v 2016.12.0) ユーザーガイド**

### **摘要**

このガイドでは、HPE ProLiant SCCM Integration Kit のインストールと使用についてその手順と前提条件を説明します。HPE ProLiant SCCM Integration Kit は、ProLiant サーバーを展開するためのサポートを提供します。

部品番号: 707356-592  
発行: 2017 年 3 月  
版数: 1

# 目次

はじめに.....	4
ライセンス.....	5
<b>サポートマトリックス.....</b>	<b>6</b>
サポートされる System Center 製品およびターゲットオペレーティングシステム.....	6
SCCM の互換性およびインストール要件.....	7
サポートされるターゲットサーバー.....	7
<b>インストールと構成.....</b>	<b>11</b>
インストール.....	11
構成.....	12
アップグレード.....	13
アンインストール.....	14
<b>Windows Server の ProLiant サーバーへの展開.....</b>	<b>15</b>
<b>ProLiant ファームウェアおよびソフトウェアアップデートの展開.....</b>	<b>16</b>
<b>拡張インベントリデータの収集.....</b>	<b>17</b>
<b>トラブルシューティング.....</b>	<b>19</b>
一部のドライバーのブートイメージへの組み込みに失敗する.....	19
再インストール、アップグレード、またはアンインストールの失敗.....	19
展開が SCCM 2012 SP2 および SCCM 2012 R2 SP1 で失敗する.....	19
<b>サポートと他のリソース.....</b>	<b>20</b>
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	20
アップデートへのアクセス.....	20
ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスへの登録.....	20
Web サイト.....	21
カスタマーセルフリペア (CSR) .....	21
リモートサポート (HPE 通報サービス) .....	22
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	22
<b>ハードウェア構成.....</b>	<b>23</b>
<b>用語集.....</b>	<b>27</b>

## サードパーティの Web サイト

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

## 商標について

Microsoft®および Windows®は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

# はじめに

HPE ProLiant SCCM Integration Kit は、SCVMM に以下を提供します。

- ドライバーおよび ProLiant サーバーを展開するためのドライバーパッケージ
- ProLiant サーバーに関する拡張インベントリデータを収集するためのツール

今回のリリースには以下が含まれます。

- Service Pack for ProLiant 2016.10.0 Windows Server ドライバー

インテグレーションキットでは、インストールのためのより柔軟な PowerShell スクリプトを使用し、ドライバーパッケージと HPE ProLiant ドライバーを提供し、展開用の Microsoft タスクシーケンスを使用します。この設計では、最新バージョンの Configuration Manager には依存しておらず、Microsoft タスクシーケンス（たとえば UEFI サポート）への強化機能の利点が得られ、認証情報を必要とするカスタムタスクは含まれていません。

次の表は、統合ソフトウェアキット機能を比較します。

表 1: 統合ソフトウェアキット機能の比較

機能	2013.09.0 またはそれ以前	2014.02.0 以降
インストール	GUI インストールユーティリティ経由でインストールします。	PowerShell スクリプト経由。
タスクシーケンスの生成	HPE のウィザードで実行します。	Microsoft のウィザードで実行します。
カスタムの再起動/状態タスク	はい、あります。キットに含まれています。	いいえ、Microsoft タスクシーケンスでは必要ありません。
ハードウェア構成	はい、あります。ツールキット、パッケージ、およびカスタムタスクはキットに付属します。	はい、手動の手順を使用します。 <a href="#">ハードウェア構成(23 ページ)</a> を参照してください。
Post-OS の構成	はい、あります。パッケージ、スクリプト、および smart コンポーネントはキットに付属します。	はい、ソフトウェアのカatalogを使用します。
拡張インベントリ	はい、ツール/パッケージと MIF ファイルを使用します。	はい、ツール/パッケージと MIF ファイルを使用します。
アンインストール	GUI アンインストールユーティリティ経由でアンインストールします。	PowerShell スクリプト経由。

❗ **重要:**

キットのバージョン 2013.09.0 または以前のバージョンがインストールされている場合、そのバージョンがアンインストールされ、新しいバージョンがインストールされます。つまり、既存の HPE ProLiant タスクシーケンスは機能しないということです。新しいタスクシーケンスは、Microsoft タスクシーケンスに基づいているため、簡単に作成およびカスタマイズができます。**Windows Server の ProLiant サーバーへの展開(15 ページ)**および**ハードウェア構成(23 ページ)**を参照してください。

# ライセンス

このキットは HPE OneView for Microsoft System Center の一部であり、HPE OneView または HPE Insight Control の一部としてライセンスが適用されます。別になつたライセンスキーはありません。管理対象サーバーごとにライセンスを 1 つずつ用意する必要があります。

# サポートマトリックス

## サポートされる System Center 製品およびターゲットオペレーティングシステム

キットは、SCCM の次のバージョンにインストールすることができ、次のオペレーティングシステムを展開できます。

Host OS\SCCM	SCCM 2012 R2 SP1	SCCM 2012 SP2	SCCM Current Branch <sup>1</sup>
<b>Windows Server 2008 R2 SP1</b>	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016
<b>Windows Server 2012</b>	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016
<b>Windows Server 2012 R2</b>	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016
<b>Windows Server 2016</b>			Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016

<sup>1</sup> SCCM Current Branch には、SCCM 1511、SCCM1602、SCCM 1606、SCCM 1610 が含まれています。

### 制限事項 :

- PowerShell コマンドレットにアクセスするため、コンソールをインストールしたプライマリサイトサーバーである必要があります。
- Windows Server 2008 R2 で PowerShell 3.0 または以降がインストールされている必要があります。
- 一部のドライバーでは、ブートイメージへの挿入に失敗します。[トラブルシューティング\(19 ページ\)](#) の項を参照してください。
- Windows Server 2008 R2 core edition のインストールはサポートされていません。
- Windows Server 2008 R2 を UEFI サーバーに展開する場合は、UEFI Optimized Boot と Secure Boot を無効にする必要があります。

# SCCM の互換性およびインストール要件

ProLiant SCCM 2012 Integration Kit では、以下のバージョンの System Center Configuration Manager がサポートされます。

SCCM 1511
SCCM 1602
SCCM 1606
SCCM 1610
SCCM 2012 SP2 (Cumulative Update なし)
SCCM 2012 SP2 (Cumulative Update 1 付)
SCCM 2012 SP2 (Cumulative Update 2 付)
SCCM 2012 SP2 (Cumulative Update 3 付)
SCCM 2012 R2 SP1 (Cumulative Update なし)
SCCM 2012 R2 SP1 (Cumulative Update 1 付)
SCCM 2012 R2 SP1 (Cumulative Update 2 付)
SCCM 2012 R2 SP1 (Cumulative Update 3 付)

## ❗ 重要:

ProLiant SCCM Integration Kit をインストールする前に、<https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=46681> にある System Center Configuration Manager コマンドレットライブラリをインストールする必要があります。

## サポートされるターゲットサーバー

以下のサーバーを展開および管理できます。

オペレーティングシステムのサーバーモデル	Windows Server 2008 R2	Windows Server 2012	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2016
Synergy 480 Gen9	非対応	非対応	非対応	対応
BL460c Gen9	対応	対応	対応	対応
BL660c Gen9	対応	対応	対応	対応
BL660c Gen8	対応	対応	対応	対応

表は続く

オペレーティングシステムのサーバーモデル	Windows Server 2008 R2	Windows Server 2012	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2016
BL465c Gen8 (Opteron 6300 シリーズ)	対応	対応	対応	対応
BL420c Gen8 (Opteron 6300 シリーズ)	対応	対応	対応	対応
BL460c Gen8 (Opteron 6300 シリーズ)	対応	対応	対応	対応
BL465c G7	対応	対応	対応	非対応
BL2x220c G7	対応	対応	非対応	非対応
BL490c G7	対応	対応	対応	非対応
BL620c G7	対応	対応	対応	非対応
BL460c G7	対応	対応	対応	非対応
BL680c G7	対応	対応	対応	非対応
BL685c G7	対応	対応	対応	非対応
BL460c G6	対応	対応	対応	非対応
DL80 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL120 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL380 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL160 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL180 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL60 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL560 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL580 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL360 Gen9	対応	対応	対応	対応
DL380p Gen8 (Opteron 6300 シリーズ)	対応	対応	対応	対応
DL160 Gen8	対応	対応	対応	対応
DL385p Gen8 (Opteron 6300 シリーズ)	対応	対応	対応	対応
DL320e Gen8 (Opteron 6300 シリーズ)	対応	対応	対応	対応

表は続く



オペレーティング システムのサーバ モデル	Windows Server 2008 R2	Windows Server 2012	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2016
DL560 Gen8 (Opteron 6300 シ リーズ)	対応	対応	対応	対応
DL380e Gen8	対応	対応	対応	対応
DL320e Gen8 V2	対応	対応	対応	対応
DL580 Gen8 (Opteron 6300 シ リーズ)	対応	対応	対応	対応
DL360p Gen8 (Opteron 6300 シ リーズ)	対応	対応	対応	対応
DL360e Gen8	対応	対応	対応	対応
DL360 G7	対応	対応	対応	非対応
DL585 G7	対応	対応	対応	非対応
DL380 G7	対応	対応	対応	非対応
DL120 G7	対応	対応	非対応	非対応
DL385 G7 (Opteron 6300 シ リーズ)	対応	対応	対応	非対応
DL580 G7	対応	対応	対応	非対応
DL360 G6	対応	対応	対応	非対応
DL380 G6	対応	対応	対応	非対応
ML150 Gen9	対応	対応	対応	対応
ML110 Gen9	対応	対応	対応	対応
ML350 Gen9	対応	対応	対応	対応
ML350e Gen8 V2	対応	対応	対応	対応
ML350e Gen8 (Opteron 6300 シ リーズ)	対応	対応	対応	対応
ML310e Gen8 V2	対応	対応	対応	対応
ML310e Gen8 (Opteron 6300 シ リーズ)	対応	対応	対応	対応
ML350p Gen8	対応	対応	対応	対応
ML110 G7	対応	対応	対応	非対応
ML350 G6	対応	対応	対応	非対応
SL4540 Gen8	対応	対応	対応	非対応
SL4545 G7	対応	対応	非対応	非対応

制限事項：

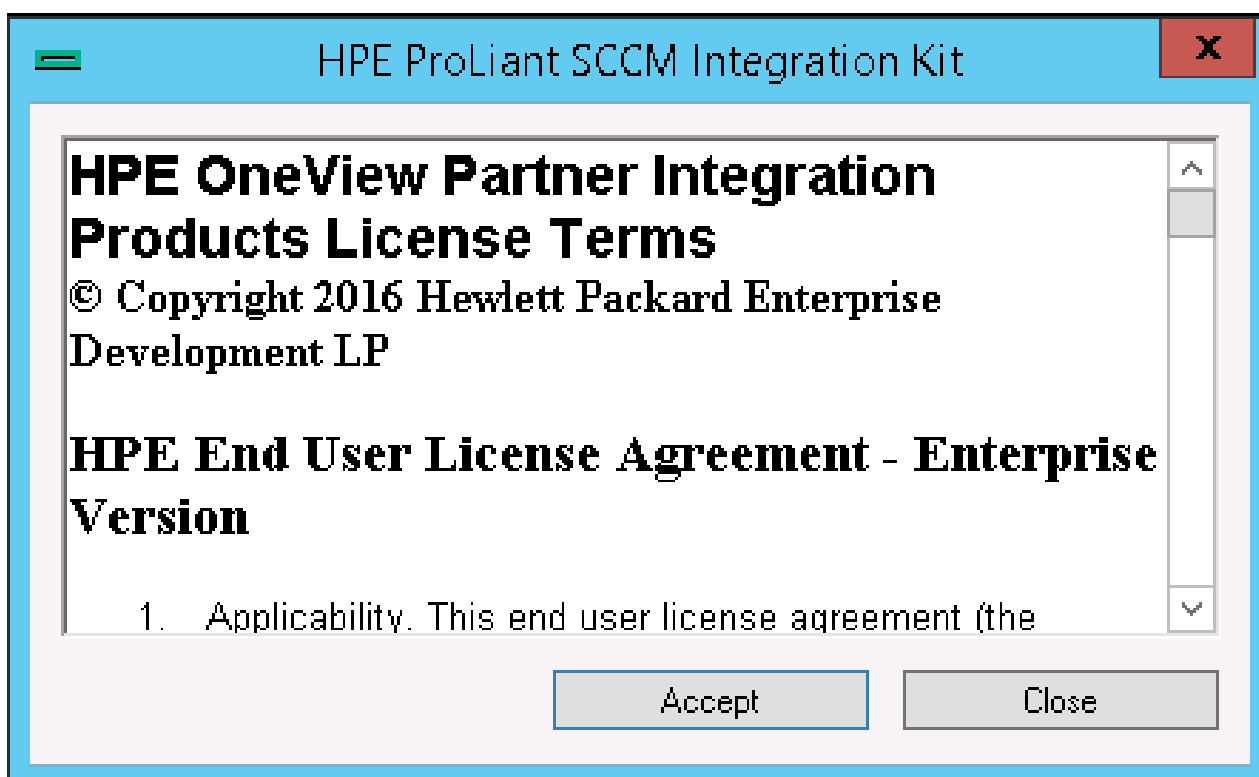
- デフォルトでは、ハードウェアの構成はサポートされていません。
- 複数のストレージコントローラーまたは複数のディスクが利用可能な（複数の DAS または SAN 接続のいずれかを使用）サーバーへの適切な展開は、デフォルトではサポートされていません。
- HPE NC540 シリーズネットワークアダプターを使用した PXE ベースの展開はサポートされていません。

# インストールと構成

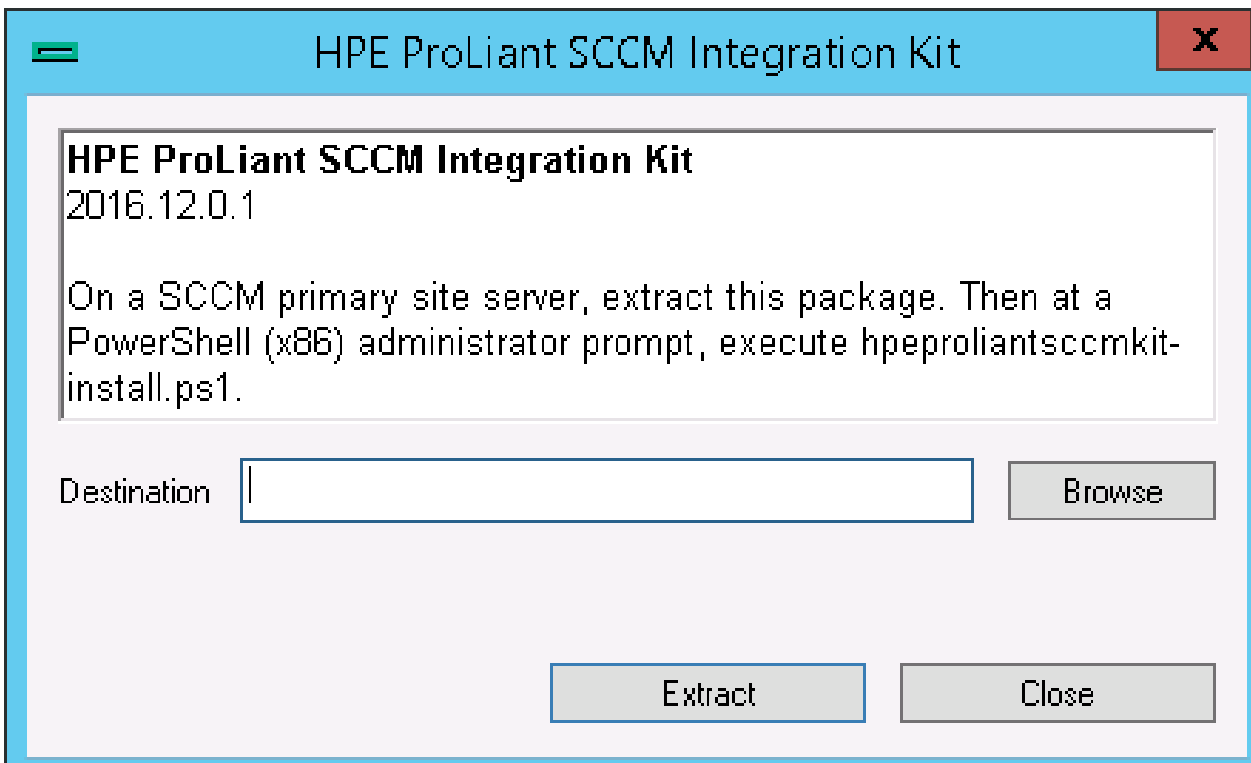
## インストール

### 手順

1. 以下の前提条件が満たされていることを確認します。
  - a. サポートマトリックスで説明されている要件をサーバーが満たしている。
  - b. ログインユーザーが管理者レベルの権限を持っている。
2. SCCM プライマリサイトサーバーで、`autorun.hta` を実行し、OneView for Microsoft System Center イメージからのインストールを開始します。 **Install HPE ProLiant SCCM Integration Kit** をクリックします。
3. **Accept** をクリックします。



4. 必要に応じて、パッケージを抽出するためのディレクトリを指定します。 **Extract** をクリックします。



5. 管理者モードで PowerShell (x86) を起動します。
6. 「4(11 ページ)」で指定したディレクトリに移動します。
7. `.\hpeproliantsccmkit-install.ps1` を実行します。  
インストールスクリプトでは、既存のドライバーを削除し (必要な場合)、新しいドライバーをコピーし、役立つ名前と意味のあるカテゴリで新しいドライバーをインポートし、ドライバーパッケージを作成し、インベントリツールをコピーし、ツールのソフトウェアパッケージを作成して、アンインストールスクリプトをコピーします。インストールのログは、`hpeproliantsccmkit.log` という名前で、Windows ディレクトリにあります。

**注記:**

インストールスクリプトの変更はサポートされていません。

WS2016 ドライバーおよびドライバーパッケージは、SCCM ブランチビルドでのみサポートされません。例えば、SCCM 1511 および SCCM 1606 です。

## 構成

### 手順

1. X 64 ブートイメージに ProLiant ドライバーを追加します。  
ブートイメージにドライバーを追加する際に、次のような警告メッセージが表示される場合があります。選択した 1 つ以上のドライバーがストレージまたはネットワーククラスにありません。ブートに必要なブートイメージにのみドライバーを追加してください。  
警告を無視して **Yes** をクリックして選択したドライバーをブートイメージに追加します。  
ProLiant ドライバーを追加するには、次の手順を実行してください。
  - a. ドライバーのノードでは、適切なカテゴリ (たとえば「HPE ProLiant WinPE 5.0 x64」および「HPE ProLiant WinPE 10.0 x64」) で、リストにフィルターをかけます。
  - b. リストに示されたすべてのドライバーを選択します。

- c. 選択を右クリックして、**Edit > Boot Images** を選択します。
- d. 適切なブートイメージ（たとえば「ブートイメージ (x64)」）を選択します。
- e. **OK** をクリックします。

ドライバーは、使用している WinPE のバージョンと完全に一致する必要があります。

ProLiant SCCM Integration Kit は、Windows ADK バージョン 8.0、8.1、または 10 から作成された WinPE イメージのみをサポートします。

2. 配布ポイントに、ブートイメージを配布して更新します。
  - a. ブートイメージのノードで、x64 ブートイメージを選択します。
  - b. 右クリックし、**Distribute Content** を選択します。
  - c. ウィザードの指示に従います。
  - d. X64 ブートイメージをもう一度選択します。
  - e. 右クリックし、**Update Distribution Points** を選択します。
  - f. ウィザードの指示に従います。

**!** **重要:**

- ドライバーが組み込まれる配布ポイントに、ブートイメージをアップデートする必要があります。
- Update Distribution Points ウィザードが失敗した場合は、**トラブルシューティング**(19 ページ)を参照してください。
- PXE ベースの展開が必ず正常に動作するには、X86 ブートイメージが配布ポイントに配布される必要があります。

3. すべての HPE ProLiant ドライバーパッケージを配布ポイントに配布して、アップデートします。
  - a. ドライバーパッケージのノードでは、すべての ProLiant ドライバーパッケージを選択します。
  - b. 右クリックし、**Distribute Content** を選択します。
  - c. ウィザードの指示に従います。
  - d. ProLiant ドライバーパッケージをもう一度選択します。
  - e. 右クリックし、**Update Distribution Points** を選択します。
  - f. ウィザードの指示に従います。
4. すべての HPE ProLiant ソフトウェアパッケージを配布ポイントに配布して、アップデートします。
  - a. パッケージのノードでは、すべての ProLiant ソフトウェアパッケージおよび Configuration Manager Client Package を選択します。
  - b. 右クリックし、**Distribute Content** を選択します。
  - c. ウィザードの指示に従います。
  - d. ProLiant ソフトウェアパッケージをもう一度選択します。
  - e. 右クリックし、**Update Distribution Points** を選択します。
  - f. ウィザードの指示に従います。
5. Hardware Inventory Agent を構成します。
  - a. クライアント設定ノードで、**Default Client Settings** をダブルクリックします。
  - b. 左側のウィンドウで、**Hardware Inventory** を選択します。
  - c. **Maximum custom MIF file size (KB) = 512** に設定します。
  - d. **Collect MIF file = Collect IDMIF and NOIDMIF files** に設定します。
  - e. **Set Classes...** をクリックします。
  - f. <SCCM Installation>\OSD\Lib\Packages\HP\ProLiant\InventoryTool フォルダーにある各 .mof ファイルに対して、**Import...** をクリックし、ファイルを選択し、**Open** をクリックしてから **Import** をクリックします。

## アップグレード

キットのバージョン 2013.09.0 または以前のバージョンからアップグレードする場合、そのバージョンがアンインストールされ、新しいバージョンがインストールされます。つまり、既存の HPE ProLiant タスクシーケンスは機能しないということです。新しいタスクシーケンスは、Microsoft タスクシーケンスに基づいている

ため、簡単に作成およびカスタマイズができます。[Windows Server の ProLiant サーバーへの展開およびハードウェア構成](#)参照してください。

バージョンが 2014.02.0 以降のキットをアップグレードする場合、既存のドライバーは削除され、新しいドライバーが追加されます。ドライバーは、ブートイメージに再度追加する必要があります。ドライバーパッケージは自動的に新しいドライバーを参照します。すべてのブートイメージ、ドライバーパッケージ、およびソフトウェアパッケージは、変更を取得する配布ポイントに更新する必要があります。ドライバーパッケージの削除と再追加が行われなかったため、タスクシーケンスの機能は継続します。

**❗ 重要:**

以前のキットが PowerShell スクリプトを使用してではなく手動の手順でインストールされた場合は、アップグレードの問題が発生する可能性があります。そのような場合は、Hewlett Packard Enterprise の既存の特定のドライバーファイルとフォルダーをすべて手動で削除し、SCCM コンソールで作成された Hewlett Packard Enterprise 固有のドライバーとドライバーパッケージをすべて削除してから、PowerShell スクリプト、`\hpeproliantscmmkit-install.ps1` を使用して、新しいキットをインストールします。以前のキットが PowerShell スクリプトを使用してインストールされていた場合、アップグレードが可能です。

## アンインストール

### 手順

1. 管理者モードで PowerShell (x86) を起動します。
2. SCCM インストールディレクトリ (例えば、`C:\Program Files\Microsoft Configuration Manager`) にディレクトリを変更します。
3. `.\hpeproliantscmmkit-uninstall.ps1` を実行します。
4. アンインストールログは `hpeproliantscvmmkit.log` と名付けられており、Windows ディレクトリにあります。

**❗ 重要:**

アンインストールスクリプトの変更はサポートされていません。

# Windows Server の ProLiant サーバーへの展開

Windows Server の展開は、SCCM OSD の標準的な方法（タスクシーケンスの作成、タスクシーケンスの構成、タスクシーケンスのコレクションへの展開）に従います。

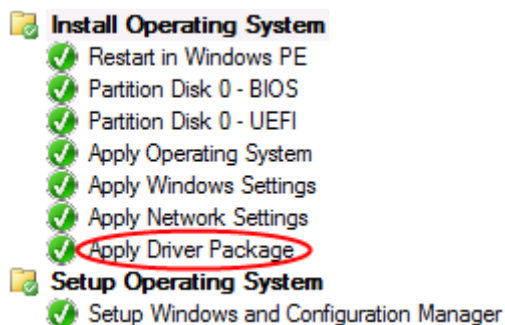
Windows Server を ProLiant サーバーに展開するには、以下の手順に従ってください。

## 手順

- 以下の条件が満たされていることを確認します。
  - 「構成」セクションのすべての手順が正常に完了した。
  - 目的に特化したコレクションが存在している。
- 新しいタスクシーケンスを作成します。

ウィザードを開くには、**Task Sequence** ノードで、リボンバーの **Create Task Sequence** をクリックします。次のオプションを選択します。

  - Create New Task Sequence** ステップで、**Install an existing image package** を選択します。
  - Install Windows** 手順で、**Configure task sequence for use with Bitlocker** の選択を解除します。
  - State Migration** 手順で、3 つすべてのオプションの選択を解除します。
- 新しいタスクシーケンスを編集します。
  - Apply Device Drivers** タスクを削除し、適切な HPE ProLiant ドライバーパッケージを参照する同じ場所に **Apply Driver Package** タスクを追加します。



- インストールメディアの `install.wim` ファイルが添付された Windows Server 2008 R2 x64 を展開する場合、**Apply Operating System** タスクの前に、値が `OSDPreserveDriveLetter = False` の **Set Task Sequence Variable** タスクを追加します。
  - ProLiant Updates Catalog ソフトウェアバンドルを後で確実に展開できるように、SNMP 機能を有効にすることをおすすめします。有効にするには、該当するコマンド行のタスクシーケンスの最後に、以下のコマンド行の**実行タスク**を追加します。
    - Windows Server 2008 R2 の場合 : `servermanagercmd -install SNMP-Services`
    - Windows Server 2012 以降の場合 : `powershell.exe -command install-windowsfeature -name SNMP-Service`
- タスクシーケンスをコレクションに展開します。
  - ターゲットサーバーをインポートしてコレクションに割り当てます。

### ⓘ 重要:

SMBIOS GUID と PXE NIC MAC アドレスを指定する必要があります。SMBIOS GUID は、SCCM エージェントがデータベースでターゲットサーバーを照合し、NIC の順序問題を防止できるようにするために必要です。PXE NIC MAC アドレスは、Clear Required PXE Deployment 機能に必要なです。

- ターゲットサーバーの電源を入れ、サーバーが PXE を起動し、SCCM に接続して、展開プロセスを開始できるようにします。

# ProLiant ファームウェアおよびソフトウェアアップデートの展開

ProLiant Updates Catalog は、最新のファームウェアとソフトウェアを SPP から提供します。SCUP と SCCM のソフトウェアアップデート機能のカタログを使用して ProLiant サーバーを最新に維持することができます。詳細については、[HPE ProLiant Updates Catalog ユーザーガイド](#)を参照してください。

---

① **重要:**

新たに展開されたサーバーにカタログのアップデートを適用すると、iLO ドライバーが完全にインストールされ、追加のドライバーおよびユーティリティがインストールされ、既存のドライバーがアップデートされます。

---



# 拡張インベントリデータの収集

HPE ProLiant Inventory Tool はコマンドラインユーティリティです。実行すると、HPE Insight Management WBEM Provider からデータを収集し、HP#.mif mif ファイルを NOIDMIFS ディレクトリに生成します。このファイル内の情報は、Hardware Inventory Client Agent によって収集され、SCCM データベースに格納されて、ソリューションエクスプローラーで表示できるようになります。

拡張インベントリデータを収集するには、次の手順に従います。

## 手順

- 以下の条件が満たされていることを確認します。
  - 「構成」セクションのすべての手順が正常に完了した。
  - 管理対象サーバーに Insight Management WBEM Provider がインストールされている。
- パッケージをコレクションに展開します。

ウィザードを開始するには、**HPE ProLiant Inventory Tool** パッケージを右クリックして **Deploy** を選択し、表示される手順に従います。次のオプションを選択します。

- Scheduling** 手順で、定期的なスケジュールを追加し、**Rerun behavior** を「Always rerun program（常にプログラムを再実行）」に設定します。

次の表が SCCM に追加されます。

**表 2: HPE ProLiant の位置**

名前	値（例を示します）
エンクロージャー	Enc001
ベイ	5

**表 3: HPE ProLiant システム概要**

名前	値（例を示します）
Model（モデル）	ProLiant BL465c G7
Serial Number（シリアル番号）	AQQ1620FJ3
GUID	9032393F-3000-0000-ABCD-303D30A652BB
CPU	ソケット 1 の AMD Opteron (TM) プロセッサファミリ 2.3 GHz (x64 ファミリ 16 モデル 9 ステッピング 1) プロセッサ
DIMM	プロセッサボード 1 の 8.00 GB 物理メモリモジュール 1
マネジメントプロセッサ 1	Integrated Lights Out 3 (iLO3)
Smart アレイ コントローラー	スロット 0 の Smart アレイ P410i

表は続く

名前	値 (例を示します)
Smart アレイディスク	68.37 GB ポート : 1I ボックス : 1 ベイ : 1
ネットワークアダプター	HPE NC551i デュアルポート FlexFabric 10Gb コンバージドネットワークアダプター

<sup>1</sup> 項目は繰り返される場合があります。

**表 4: HPE ProLiant バージョンコントロール**

タイプ	コンポーネント (例を示します)	バージョン (例を示します)
バンドル <sup>1</sup>	proliantfw	2012.02.0.51
ソフトウェア	Windows 用 HPE ProLiant アレイコンフィギュレーションユーティリティ (cpqacuxe.exe)	9.0.24.0
ソフトウェア	Microsoft Windows Server 2003/2008 x64 版用 HPE ProLiant Integrated Lights-Out Management Interface Driver (CpqCiDrv.sys)	1.15.0.0
ファームウェア	BladeSystem c3000 エンクロージャー	3.50
ファームウェア	A19 (アクティブ)	2011.12.28
ファームウェア	A19 (冗長)	2011.12.28
ファームウェア	PIC	1.6
ファームウェア	Integrated Lights Out 3 (iLO3) (アクティブ)	1.28
ファームウェア	スロット 0 の Smart アレイ P410i	5.14
ファームウェア	ディスク EH0146FAWJB ポート : 1I ボックス : 1 ベイ : 1	HPDH
ファームウェア	NC551i デュアルポート FlexFabric 10 Gb コンバージドネットワークアダプター (ブートコード)	4.0.493.0

<sup>1</sup> 項目のタイプとコンポーネントは繰り返される場合があります。

インベントリツールの代わりにまたは補助として、特定の HPE WMI クラスを収集するように Hardware Inventory Agent を構成できます。WMI クラスを収集するには、クラスを追加するための SCCM の指示に従ってください。以下のオプションを選択します。

- **Connect to Windows Management Instrumentation (WMI)** ダイアログで、**Computer name** を最新の Insight Management WBEM Provider を実行するサーバーに設定し、**WMI namespace** を root\hpq に設定し、**Recursive** を選択してから、必要に応じて認証情報を指定します。
- **Add Hardware Inventory Class** ダイアログで、1 つまたは複数のクラスを選択します。クラスについては、<http://www.hpe.com/support/hpesc> の Insight Management WBEM Providers ユーザーガイドを参照してください。
- ハードウェアインベントリツールは Synergy ハードウェアをサポートしません。

# トラブルシューティング

## 一部のドライバーのブートイメージへの組み込みに失敗する

これが発生する理由の一例として、DISM とオペレーティングシステムでサポートされるものよりも新しいドライバー署名方法を使用してドライバーが署名されていることが挙げられます。その場合は、ドライバーは署名なしドライバーとして扱われ、ブートイメージに組み込まれません。例えば、Windows Server 2012 で SCCM 2012 SP2 を実行している場合、一部の Windows Server 2012 R2 ドライバーが x64 ブートイメージに組み込まれないことがあります。問題のドライバーがその環境では不要である場合は、ブートイメージのドライバーリストからそのドライバーを削除し、ブートイメージの配布ポイントへの更新を再試行します。

## 再インストール、アップグレード、またはアンインストールの失敗

いくつかの原因が考えられます。

- ドライバーパッケージのデータソースフォルダーが削除されましたが、ドライバーパッケージはコンソールに存在しています。
- データソースフォルダーの 1 つがロックされています。

この問題を解決するには、以下の手順を実行してください。

- コンソール上でドライバーパッケージを手動で削除します。
- サーバーを再起動して、フォルダーのロックを解除します。

## 展開が SCCM 2012 SP2 および SCCM 2012 R2 SP1 で失敗する

SCCM 2012 SP2 および SCCM 2012 R2 SP1 でのタスクシーケンスの展開がタイミングが原因で失敗し、次のエラーメッセージがクライアントの smsts.log ファイルに表示されます。

```
There are no task sequences available to this computer. Please ensure you have at least one task sequence advertised to this computer. Skipping Task Sequence <ID> because it is not active yet.
```

この問題を解決するには、展開に使用するタスクシーケンスの時間を数時間だけ進めてください。

# サポートと他のリソース

## Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイト (<http://www.hpe.com/assistance>) にアクセスします。
- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイト (<http://www.hpe.com/support/hpesc>) にアクセスします。

### ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

## アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品は、製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするメカニズムを備えています。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨される更新方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。
  - Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの「メールニュース配信登録」ページ：<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>
  - Software Depot の Web サイト：<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>
- お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページ (<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>) にアクセスします。

### ❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の権利付与情報が必要になる場合があります。関連する権利付与情報を使って HP パスポートをセットアップしておく必要があります。

## ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスへの登録

Insight Management には、1 年間、24 時間年中無休の Hewlett Packard Enterprise ソフトウェアテクニカルサポートおよびアップデートサービスが含まれています。このサービスは、ソフトウェアの実装および操作に関する問題を解決するための支援情報についての Hewlett Packard Enterprise テクニカルリソースへのアクセスを提供します。

このサービスはさらにソフトウェアアップデートおよびリファレンスマニュアルへのアクセスを提供します。Hewlett Packard Enterprise から、電子形式のデータとして入手することができます。電子ライセンスの使用権を購入した場合、電子アップデートが利用できます。

このサービスで、Insight Management のお客様は、ソフトウェアアップデートの通知と入手だけでなく効率の良い問題解決も受けることができます。このサービスについて詳しくは、OneView Services の Web サイト ([HPE OneView Services](#)) を参照してください。

このサービスの登録は、ライセンス証明/ライセンスキーをオンラインで引き換えた時点で行われます。

## ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスの使用方法

ソフトウェアのアップデートがリリースされると、最新版のソフトウェアおよびドキュメントを入手いただけます。ソフトウェアアップデートおよびライセンスのポータルは、Hewlett Packard Enterprise ソフトウェアサポート契約に基づく製品のソフトウェア、ドキュメントライセンスアップデートへのアクセスを提供します。

このポータルには、<http://www.hpe.com/support/hpesc> の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスできます。

お客様のプロファイルを作成し、サポート契約をプロファイルにリンクしたら、<http://www.hpe.com/info/hpesoftwareupdatesupport> にあるソフトウェアアップデートおよびライセンスのポータルを参照して、ソフトウェア、ドキュメント、およびライセンスのアップデートを入手してください。

## Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	<a href="http://www.hpe.com/info/enterprise/docs">http://www.hpe.com/info/enterprise/docs</a>
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	<a href="http://www.hpe.com/support/hpesc">http://www.hpe.com/support/hpesc</a>
Hewlett Packard Enterprise Worldwide の連絡先	<a href="http://www.hpe.com/assistance">http://www.hpe.com/assistance</a>
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	<a href="http://www.hpe.com/support/e-updates-ja">http://www.hpe.com/support/e-updates-ja</a>
Software Depot	<a href="http://www.hpe.com/support/softwaredepot">http://www.hpe.com/support/softwaredepot</a>
カスタマーセルフリペア	<a href="http://www.hpe.com/support/selfrepair">http://www.hpe.com/support/selfrepair</a>
Insight Remote Support	<a href="http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs">http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs</a>
Serviceguard Solutions for HP-UX	<a href="http://www.hpe.com/info/hpux-serviceguard-docs">http://www.hpe.com/info/hpux-serviceguard-docs</a>
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス	<a href="http://www.hpe.com/storage/spock">http://www.hpe.com/storage/spock</a>
ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート	<a href="http://www.hpe.com/storage/whitepapers">http://www.hpe.com/storage/whitepapers</a>

## カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

CSRについて詳しくは、最寄りのサービス窓口にお問い合わせるかまたは次に示す CSR の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/support/selfrepair>

## リモートサポート（HPE 通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

デバイスサポートについて詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

## ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 ([docsfeedback@hpe.com](mailto:docsfeedback@hpe.com)) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

# ハードウェア構成

オペレーティングシステムの展開前に、ハードウェア構成が必要ではない場合があります。ハードウェア構成は、ROM ベースセットアップユーティリティ (RBSU)、Option ROM Configuration for Arrays (ORCA) などの他の方法でも実行できます。

---

## ❗ 重要:

ハードウェア構成は、HPE Scripting Toolkit for Windows と、WinPE の SPP ドライバーを使用して実行しているので、STK、ドライバー、および WinPE の問題の影響を受けやすくなっています。これを使用する前にアドバイザリを確認します。

---

タスクシーケンスにハードウェア構成を追加するには、以下の手順に従います。

## 手順

1. 最新バージョンの **HPE Scripting Toolkit for Windows** をダウンロードして抽出します。
2. 新しい UNC 共有に `x64\tools\*` および `x64\drivers\winpe50\system\hpsstkitio\*` をコピーします。
3. UNC 共有に、すべての入力ファイルを作成するか追加するかします。

---

## 注記:

ほとんどのツールキットユーティリティでは、入力ファイルまたはデータファイルが必要です。

4. UNC フォルダーに、以下の内容を持つ `drvload.cmd` という名前のファイルを作成します。

```

@echo off
if not exist %systemdrive%\windows\system32\hpsstkio.sys copy hpsstkio.sys
%systemdrive%\windows\system32\drivers

pushd .

reg.exe query HKLM\System\CurrentControlSet\Enum\PCI | find
"VEN_103C&DEV_3302"
set ilo2hw=%errorlevel%
reg.exe query HKLM\System\CurrentControlSet\Services\hpqilo2
set ilo2drv=%errorlevel%
if %ilo2hw%==0 if %ilo2drv%==1 (
echo DRVLOAD: Loading iLO2 drivers
cd /d %systemdrive%\windows\system32\driverstore\filerepository\hpqilo2*
drvload.exe hpqilo2.inf
cd /d %systemdrive%\windows\system32\driverstore\filerepository\cpqcidrv*
drvload.exe cpqcidrv.inf
ping localhost -n 60 >nul
)

reg.exe query HKLM\System\CurrentControlSet\Enum\PCI | find
"VEN_103C&DEV_3306"
set ilo3hw=%errorlevel%
reg.exe query HKLM\System\CurrentControlSet\Services\hpqilo3core
set ilo3drv=%errorlevel%
if %ilo3hw%==0 if %ilo3drv%==1 (
echo DRVLOAD: Loading iLO3 drivers
cd /d %systemdrive%\windows\system32\driverstore\filerepository\hpqilo3core*
drvload.exe hpqilo3core.inf
cd /d %systemdrive%\windows\system32\driverstore\filerepository\hpqilo3chif*
drvload.exe hpqilo3chif.inf
ping localhost -n 60 >nul
)

popd

```

5. 以下のプロパティで、新しいソフトウェアパッケージを作成します。
  - a. **Name** = "HPE ProLiant Hardware Configuration"
  - b. **This package contains source files** を選択します。
  - c. **Source folder** = 作成された UNC 共有
  - d. **Do not create a program** を選択します。
6. 新しいソフトウェアパッケージを配布ポイントに配布します。
7. タスクシーケンスを編集します。



### Configure HPE ProLiant Hardware

- Restart in Windows PE
- Partition Disk 0 - BIOS
- Partition Disk 0 - UEFI
- Load WinPE Drivers
- Configure iLO
- Configure BIOS (Gen8)
- Restart Computer
- Configure Smart Array
- Wait

### Install Operating System

- Restart in Windows PE
- Partition Disk 0 - BIOS
- Partition Disk 0 - UEFI
- Apply Operating System
- Apply Windows Settings
- Apply Network Settings
- Apply Driver Package

### Setup Operating System

- Setup Windows and Configuration Manager
- Install SNMP Feature

- 「ProLiant ハードウェアの設定」という名前の最初の新しいグループを作成します。
- 「オペレーティングシステムのインストール」グループから最初の3つの手順を新しいグループにコピーします。

#### ❗ 重要:

ベアメタルサーバーを配備するときに、パーティションの作業が必要です。ベアメタルサーバーでは、Smart アレイ自体は自動的に設定されますが、ドライブのパーティション分割およびフォーマットを行い、「コマンド行の実行」を許可して参照パッケージをダウンロードしたり、コンピュータの再起動タスクを許可しての状態情報をキャッシュする必要があります。

- コマンド行の実行タスクの手順を次のオプションで行います。

- **Name** = Load WinPE Drivers
- **Command Line** = drvload.cmd
- **Package** = HPE ProLiant Hardware Configuration

#### ❗ 重要:

drvload.cmd スクリプトは、hpsstkio.sys ドライバーを windows\system32\drivers ディレクトリにコピーし、x64 ブートイメージに追加された iLO ドライバーをロードします。これらのドライバーは、一部のツールキットユーティリティが必要です。

- ツールキットユーティリティごとに1つまたは複数のコマンド行の実行タスクを追加します。

- **Name** = toolkit utility name
- **Command Line** = toolkit utility executable with parameters
- **Package** = HPE ProLiant Hardware Configuration

一部のコマンドライン例を次に示します。

- setbootorder.exe pxe hd cdrom usb floppy
- conrep.exe -l -fconrep-d.xml -xconrep.xml
- hprcu.exe -l -f hprcu-d.xml

- `hpssascripting.exe -i acu-rd.ini -internal -reset -e %temp%\hpssascripting.log`
- `hponcfg.exe /f hponcfg-d.xml /l %temp%\hponcfg.log`

詳しくは、[HPE Scripting Toolkit for Windows](#) を参照してください。

---

❗ **重要:**

- BIOS 設定ユーティリティは 2 つ存在するため、BIOS 設定を行う場合は、ユーティリティごとに別のタスクシーケンスを作成するか、どのユーティリティを使用するかを指定するバッチファイルを使用します。
  - BIOS の設定を行っている場合は、設定の変更後にシステムの再起動が必要となる可能性があります。**The boot image assigned to this task sequence** を選択してコンピュータの再起動タスクを追加します。
  - Smart アレイの構成を実行している場合、「オペレーティングシステムのインストール」グループの前のグループとそのパーティショニングタスクの最後のユーティリティ手順である**必要**があります。Smart アレイを構成すると C: が消え、その結果パッケージを参照するコマンド行の実行タスクが失敗する原因となります。同じ理由で、バッチファイルで `hpssascripting.exe` を実行しないでください。
  - HPCISS3 ドライバーがサポートするコントローラーに Smart アレイ構成を行うと、その後のパーティションディスク 0 タスクが失敗する可能性が高くなります。Smart 構成タスクの後に、**コマンド行**が `ping localhost -n 60` のコマンド行の実行タスクを追加します。これにより、タスクシーケンスは待ちになり、ドライバーが再初期化される時間が得られます。また、ブートイメージからそのドライバーを削除するか、手動で Smart アレイ構成を実行することも可能です。
  - UEFI サーバーに Smart アレイ構成を行うと、その後のパーティションディスク 0 タスクが失敗する可能性が高くなります。現在唯一の回避策は、手動で Smart アレイ構成を行うことです。
-

# 用語集

## **OSD**

Operating System Deployment

## **SCCM**

System Center Configuration Manager

## **SCUP**

System Center Updates Publisher

## **SPP**

Service Pack for ProLiant

## **STK**

Scripting Toolkit